

## 2 地震を知り、地震に備える

定員・回数：60人・2回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料400円  
 講師：名古屋大学減災連携研究センター長 鷺谷 威

日本は世界有数の地震国であり、東日本大震災や能登半島地震のような大地震の危険と常に隣り合わせです。地震発生の仕組みや過去の大地震について正しい知識を得るとともに、地震に関する様々な情報の理解を深め、いつ起きるか分からない地震にどう備えるべきかについて解説し、参加者と一緒に考えます。

6/13(土)	<b>地震発生の仕組みと過去の地震災害</b> 日本は世界有数の地震国です。大地震はどのような現象なのか、どうして地震が起きるのか、過去に愛知県や他の地域でどんな地震が起きてきたのかについて学びます。
7/11(土)	<b>地震に関する情報と日頃からの地震への備え</b> 地震に関しては国や自治体から様々な情報が提供されています。こうした情報を読み解くとともに、いつ来るかわからない大地震への備えについて学びます。

石器時代の東海  
-考古学の最新研究から-

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料600円  
 講師：南山大学 人文学部 教授 上峯篤史

むかしの人間がのこした物的証拠をしらべて、歴史を明らかにする。これが考古学です。いまどこかで土器が見つかっている。まえにしらべた石器を、新しい方法でしらべてみる。考古学の世界は新発見の連続で、わたしたちをいつも驚かせてくれます。この講座では東海地方の遺跡を舞台に、石器時代にかかわる考古学の最新研究を解説していきます。

5/16(土)	<b>岩倉市でみつかった石鏃(せきぞく)</b> 「大地神明社附近 昭和一九年発掘」。これは、講師が最近手にとった小箱に書かれていたメモです。箱の中身は19個の石器。ほとんどが石鏃(石器時代の矢の先に付けた、矢じり)のようです。この石器から、どんなことがわかるでしょう。考古学の力で、岩倉市の歴史を明らかにします。
5/23(土)	<b>縄文時代のくらしと人びと</b> 名古屋市にある瑞穂公園陸上競技場は、今年開催されるアジアパラ競技大会の会場として、近々リニューアルされます。この場所には国指定史跡「大曲輪貝塚」があり、約6000年前の比較的規模が大きな遺跡でした。今回の公園リニューアルにともなって、出土品が徹底的に再検討されました。リニューアルした大曲輪遺跡の研究の要点をお話します。
6/27(土)	<b>日本列島の人類史はどこまでさかのぼる？</b> 近年、日本国内で約4万年前の遺跡に関する報道が相次いでいます。中国や韓国の遺跡とも関連づけながら進む最新研究に、日本の歴史が遠い存在になったようにも思います。しかしもともと東海地方の遺跡は、この手の議論のただなかに置かれていたのです。忘れ去られた東海地方の遺跡にもういちど目をむけて、私たちのルーツを考えてみましょう。

## 4 ナイルが育んだ古代エジプト文明

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料600円  
 講師：同朋大学 文学部 准教授 古川 桂

沈んだ太陽が昇る、欠けた月が満ちる、増水したナイル川の水が引き大地に植物が芽生える。こうした永遠に繰り返す自然のサイクルの中から古代エジプト文明は生まれました。とりわけナイル川は豊かな土壌をもたらすだけでなく、古代エジプト人の思想や世界観を育ててきました。本講座では、ナイル川を中心とした自然環境を踏まえ、博物館に展示されている資料や遺跡を手がかりに、そこに生きた人々の姿を解説していきます。

5/31(日)	<b>現代に続く古代エジプトの知恵</b> 古代エジプト文明は約1600年前に終焉を迎えましたが、古代エジプト人が作ったあるシステムは、現代社会においても不可欠なシステムとして機能しています。そのシステムとは何か、どうやって作られたのかを説明します。
6/21(日)	<b>古代エジプトの死生観</b> 古代エジプト人にとって、死は終わりではなく、来世に復活するための大切な過程でした。そして復活した後に、永遠の生が待っていると考えていました。こうした死生観の背景をたどりながら、彼らが来世をどのように思い描いていたのかを壁画や遺物から見ていきます。
7/19(日)	<b>壁画に見る名もなき人々の生活</b> 古代エジプトの壁画はまるでマンガのようです。図像とヒエログリフと呼ばれる文字が一体となって、場面の意味や出来事を我々に伝えてくれるのです。それらを読み解きながら、古代エジプトの庶民の暮らしと一緒に探っていきましょう。

## 尾張名古屋と街道

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料600円  
 講師：一宮市博物館 学芸員 宮川充史

名古屋は御三家尾張徳川家の城下町であり、三河、美濃、伊勢、信濃に続く街道が交わる交通の要衝でもありました。各方面に街道網が整備されました。街道からみた東海地方の特徴をみていきます。

5/25(月)	<b>尾張徳川家と城下町名古屋</b> 江戸時代を通じて、尾張や近隣地域を治めた尾張徳川家の特徴とは何かをみていきましょう。
6/22(月)	<b>東海道と美濃路・佐屋路の役割</b> 徳川幕府が最重要視した街道が東海道で、東海道から分かれた美濃路、佐屋路です。短い街道ですが幕府直轄の街道で、東海道には不可欠な街道でした。美濃路と佐屋路が持っていた役割を明らかにします。
7/27(月)	<b>名古屋から中山道への道</b> 名古屋からは美濃・中山道方面に通じる道(木曾街道、善光寺街道、岐阜街道)もありました。江戸時代の街道において、中山道の特徴とは何か、また、現在も街道歩きで人気な中山道とはどんな街道だったのかに迫ります。

## 知られざる屏風絵の世界

定員・回数：60人・3回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料600円・資料代300円  
 講師：愛知県立芸術大学 美術学部 准教授 阪野智啓

かつて屏風絵は、宮廷から町民まで広く用いられた調度品として、日本人にとって最も身近な絵画のひとつでした。歴史も古く、奈良時代より数多くの屏風が作られてきましたが、消耗品でもあったため、江戸時代以前の屏風については詳らかではないことが多くあります。本講座では、代表的な屏風絵を取り上げつつ、それらがどのような技法や目的で作られ、また活用されていたのかを紐解いていきます。

5/29(金)	<b>屏風絵に何を描いたのか - 四季花鳥図屏風、日月山水図屏風など -</b> 屏風絵にはざっと見るだけで、花鳥図、山水図、祭礼図、風俗図など、多種多様な画題が描かれてきました。また技法も、金箔を用いた彩色画に限らず、水墨画や淡彩画など多彩です。第1回は、画題ごとの代表的な屏風絵を取り上げ、その画題の意味や時代背景、技法の解説を行います。
6/19(金)	<b>屏風の作り方の変遷 - 紅白梅図屏風、鳥毛立女図屏風など -</b> 現存する屏風は、室町時代の終りにほぼ固定化された「六曲一双(六枚折の一对の屏風)」のスタイルのものが多く遺されていますが、室町時代よりも前には、これとは違う形の屏風が作成されていました。第2回では、現代に伝わる屏風の様式と、室町時代以前の屏風の作成方法を比較しつつ、その変遷を辿ります。
7/17(金)	<b>屏風の時代による使い方 - 洛中洛外図屏風、浜松図屏風など -</b> 現在では、屏風絵は展覧会で平面的に観るか、あるいはW形に規則的に立てられたものしか見掛けなくなりました。ところが、江戸時代以前の絵巻には不規則な形に描かれ、あるいは室町時代の公家の日記からは、驚くべき屏風の使い方が記されています。第3回では、かつて屏風がどのように用いられていたのか、紐解いていきます。

## 気象学入門

定員・回数：60人・2回  
 時間・場所：午前10:00～11:30・研修室  
 費用：受講料400円  
 講師：気象予報士 寺尾直樹

毎日の暮らしに欠かせない気象情報。ニュース情報番組でおなじみの講師が、季節の気象トピックスを取り上げながら、暮らしに寄り添った気象の話題を解説します。

5/10(日)	<b>猛暑と集中豪雨に備える気象学入門</b> 夏の暮らしを脅かす猛暑と集中豪雨。そのしくみを気象学の視点からわかりやすく解説します。さらに2026年5月から運用が始まる新しい防災気象情報など、最新の制度を踏まえた備え方を学び、安心して夏を乗り切るためのヒントをお届けします。
8/ 2(日)	<b>台風のしくみと秋への気象の変化</b> 8月は台風シーズンの真っただ中。台風がどのように発生し、進路を決めるのかを学びます。さらに、夏から秋へと移る時期に見られる気象の特徴を取り上げ、暮らしに役立つ気象情報の見方を紹介。自然のしくみを理解しながら、季節の変化を安心して楽しむための知識を深める講座です。



## 指揮者のヒミツ2026

-見て分かる！デモンストレーション講座-

定員・回数：40人・3回  
 時間・場所：夜7:00~8:30・スタジオ1  
 費用：受講料 600円  
 講師：名古屋芸術大学 芸術学部 音楽領域  
 非常勤講師 高谷光信

ウクライナ・チェルニーヒウ交響楽団の常任指揮者を務める講師が、指揮者のヒミツをお話します。指揮者の役割は「演奏者に音の“入り”や“切り”の指示、テンポ・強弱など演奏の指示を与え、演奏者全体をまとめる仕事」と定義されています。しかし、それらを実際に行うためには、たった一振りに人の心理や感覚を動かす多くのカラクリ(テクニック)が隠されています。前回に引き続き、この講座では、講師の門下生に実際に指揮レッスンを行いながら、指揮者が使う秘密の技を徹底的に解説していきます。

5/21(木)	<p><b>指揮者のヒミツ その1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P.I.チャイコフスキー / バレエ「白鳥の湖」より “情景・3羽の白鳥・ナポリの踊り”</li> </ul> <p>チャイコフスキーの三大バレエのひとつ「白鳥の湖」より3曲を用いて、交響曲とは違うバレエ音楽特有のテクニックなどを、レッスン形式のデモンストレーションを用いて解説します。場面やストーリー、バレエならではの楽曲の特色を活かす指揮のヒミツをお伝えします。</p>
6/18(木)	<p><b>指揮者のヒミツ その2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ G.ビゼー / オペラ「カルメン」より “ハバネラ・闘牛士の歌・ジプシーの踊り”</li> </ul> <p>オペラ人気作品のひとつ「カルメン」より3曲を用いて、フランス・オペラの美しい旋律や繊細な歌詞を表現する指揮法を、レッスン形式のデモンストレーションを用いて解説します。スペイン民謡を用いたカルメンの異国情緒漂う音楽作りのヒミツをお伝えします。</p>
7/16(木)	<p><b>指揮者のヒミツ その3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A.ドヴォルザーク / 交響曲第9番「新世界より」 第二楽章・第四楽章</li> </ul> <p>ドヴォルザークの交響曲、「新世界より」特に有名な第二楽章、第四楽章を取り上げます。誰もが聴いたことのあるメロディーですが、抒情性や民族性を引き出す指揮について、レッスン形式のデモンストレーションを用いて解説します。交響曲のスコアの見方など、聴き慣れたメロディーの奥にあるヒミツをお伝えします。</p>

